

6. 詩の中の請求書…

Gonzalo de Berceo 『聖ミリアンの生涯』 (1234)

スペインの各地にある修道院は、あわただしく動き回る旅行者に静かな憩いの場と時間を与えてくれる。都会の喧騒から離れて心を落ち着ければゆったりと贅沢な時間を味わうことができるだろう。このような場所で読書三昧などという夢を思い描くこともある。

しかし気楽な旅行者の勝手な想像とは裏腹に中世スペインの修道院は経済的に非常に苦しかったようだ。ゴンサロ・デ・ベルセオ(Gonzalo de Berceo, 1185?-1264)の作品を読むとそれがよくわかる。このことは後述することにして、はじめに著者と作品を簡単に紹介しよう。

Gonzalo de Berceo は中世スペインで名が知られた最初の詩人で、現在の Rioja 自治州 Logroño 県の Berceo 村に生まれた。「教養派文学」(Mester de Clerecía)の詩人として多くの作品を残したが、『聖母の奇跡』(*Milagros de Nuestra Señora*)と、今回取り上げる『聖ミリアンの生涯』(*Vida de San Millán*)がとくに有名である。San Millán は Berceo 村に近い聖ミリアン修道院【写真】の創設者である。伝説によれば聖人は徳行を積んで 574 年に長寿をまっとうし、没後も多くの奇跡を起こしたという。*Vida de San Millán* は全編 489 連の比較的短い作品で 3 章に分かれている。牧童として過ごした少年時代(一章)、修道院で起こした数々の奇跡(二章)、没後の奇跡が語られている(三章)。



【写真】San Millán, Monasterio de Suso

●シマンカスの戦い

とくに興味深いのは第三章である。聖人が亡くなって遙か後 939 年に現在の Valladolid 市郊外 Simancas でレコンキスタの戦いがあった。イスラム教徒の王 Abderramán III 世を León 王国の Ramiro II 世(在位 931-950)と Castilla 伯 Fernán

González の連合軍が破った戦いであるが、そのとき「奇跡」が起きたことが語られている。これは Berceo の作品中唯一の戦闘場面である(Dutton, 1967)。

(1)

433a	Moviéronse las huestes, tovieron sue carrera
b	por acorrer al rey ¹ , ca en porfazo era .
c	mas quando aplegó la punta delantera,
d	ya pisavan los reys el suelo de la era.
434a	Ya eran en el campo entrambas las partidas,
b	avién ambos los reys mezcladas las feridas ² ;
c	las azes de los moros ³ ya eran embaídas,
d	ca la ira de Christo las avié confondidas.
435a	Sennores e amigos quantos aquí seedes ,
b	si escuchar quisiéredes, entenderlo podedes,
c	qual acorro lis traxo el voto qe sabedes
d	e Dios como lis fizo por ello sues mercedes.

【語句】433 **huestes** = ejércitos 軍 **sue** > su **acorrer** = acudir corriendo **porfazo** = situación desairada 窮地 **era** = estaba **aplegó** > llegó 到着した **era** Lat. area = tierra. // 434 **entrambas** > ambas 両方の **feridas** = golpes 打撃 **az** = tropa en fila 戦列 **embaídas** = desordenadas 乱れた **confondidas** = malparadas 痛めつけた 435 **seedes** = estéis いる **acorro** = socorro 救い。

【訳】433 軍は動き、走った。/ 窮地にあった王を救うために。/ しかし、前衛が到着したときは、/ すでに両王は戦場の土に足を降ろしていた。/ 434 両軍はすでに戦場にあり、/ 干戈(かんか)を交えていた。/ すでにモーロの戦列は乱れていた。/ キリストがお怒りになり懲らしめられたのだ。// 435 ここにお集まりの皆様、/ 耳を傾ければおわかりになります。/ 皆様もご存じの供え物のおかげでどのような援助が得られたのかを、/ また、神がそれに報いてどのような御恵みを彼らに賜れたのかを。

¹ Rey Ramiro II (在位 931-950) 151.

² 434bは過去完了の文。過去分詞は目的語の性・数と一致した。

³ アブデラマンの軍。

語学的には **era, eran, seedes** という *ser* 動詞の変化形が興味深い(433 最後の *era* は別の言葉), これは次節で述べることにして戦いの帰趨を見よう。「奇跡」が起きたのは次の場面である。

(2)

- | | |
|------|--|
| 436a | Quando estaban en campo los reys, azes paradas, |
| b | mezclavan las feridas las lanzas abaxadas, |
| c | temiense los christianos de las otras mesnadas |
| d | ca eran ellos pocos e ellas muy granadas. |
| 437a | Mientras en esta dubda sedién las buenas yentes, |
| b | asuso contra'l cielo fueron parando mientes; |
| c | vidieron dues personas fermosas e luzientes, |
| d | mucho eran más blancas qe las nieves rezientes. |

【語句】436 **abaxadas** > bajadas 下げて **meznada** = ejército 軍 **granadas** = grande, abundante 大勢の 437 **mientras** > Mientras …の間 **asuso** = arriba 上で **parar mientes** = prestar atención 注意する **dues** > dos 二人の **fermosas** > hermosas 美しい **luzientes** = que luce 輝く。

【訳】436 両王は戦場に着くと、戦列を整え、/ 槍先を下げて、突き合った。/ キリスト教徒は敵の大軍に恐れをなした。/ 自軍は少数で、敵は多勢だからだ。/ 437 良き民はこうした懸念を抱きながら/ 上空を仰ぎ目をこらした。/ そこに美しく輝くお二人の姿を見た / 新雪よりもはるかに白いお姿であった。

この「お二人」とは聖ヤコブと聖ミリヤンである。以下は■テキストを参照。

●SER と ESTAR

途中だが、今回の「理由」のテーマである **SER** と **ESTAR** に触れておこう。**SER** 動詞の活用が極端に不規則であるのは、ラテン語の *esse*「…である」と *sedere*「座っている」という2つの動詞がスペイン語でモザイクのように融合したという理由による。直説法現在 *soy, es, somos, sois, son* と、線過去 *era*, 点過去 *fui*, 接続法過去 *fuera* はラテン語の *esse* に由来するが、これらはラテン語ですでに不規則変化であった。

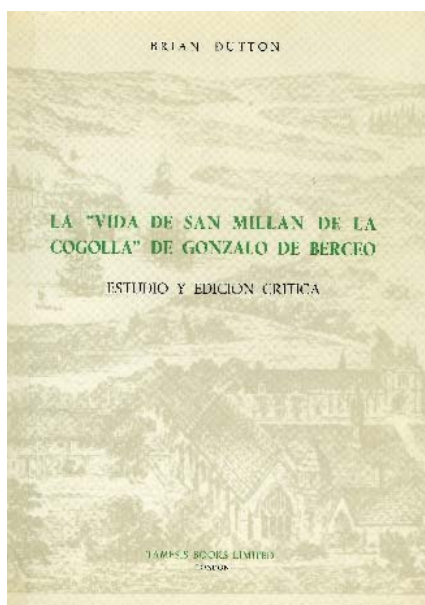
一方規則的な不定詞 *ser*, 過去分詞 *sido*, 現在分詞 *siendo*, 未来 *seré* と過去未来 *sería*, 接続法現在 *sea* は *sedere* に由来する。直説法現在 2 人称単数 *eres* だけが特別にラテン語 *esse* の未来 *eris* からできたが、これはラテン語の現在 2 人称単数 *es* と 3 人称単数 *est* が類似していて紛らわしかったためである。

sedere, *ser* は「座っている」から「…という状態である」という意味になり、その後「…である」という意味にも使われるようになった。上で見た本文中に *ser* の過去形 *era* や *fueron* が「…という状態である」という意味で使われている。435 と 437 には *sedes* と *sedién* という形も見られる。一方、*ESTAR* は本文 436 のように「立っている、…にいる」という意味だけで使われた。それが、次第に現代スペイン語のように「…という状態である」という意味にも使われるようになった⁴。

● 苦しい台所事情

さて上の 435 行に **el voto que sabedes**「皆様もご存じの供え物」という句がある。これは何を意味しているのだろうか。このような緊迫した戦闘場面で、なぜ詩人は修道院に奉納すべき供え物のことをわざわざ念を押すように言わなければならなかったのだろうか。

このテキストを校訂した Brian Dutton の研究【写真】によれば、この聖人伝のモチーフは San Millán のありがたい奇跡の数々を民衆にわかりやすい言葉で語って聞かせる、というより聖人の名を各地に知らしめ、本書に記された供え物によって貧窮した修道院を救うことであった、という。確かに後続する詩の 5 連に渡って各町村が修道院に納めるべき供物の詳細なリストが請求書のように記され、それも七・七音節、脚韻が完全に一致する 4 行詩から成る格調高い *Cuaderna Vía* という形式で歌われている。さらに「もしこれらの供え物が確かに届けられていれば / この聖人たちは我々に満足するであろうし、 / 我々も折々に



⁴ cf. Joan Corominas. 1976. *Breve Diccionario Etimológico de la Lengua Española*, s.v. *ser*.

適量のパンと葡萄酒があつて、/ 今のような惨めな生活をしなくてもすむだろう」と嘆いている。修道僧たちの窮状を切々と訴える中世スペイン語の響きが聞こえてくるようだ。

■課題・テキスト

●リオハ方言

Rioja地方はかつてはNavarraに属していたが、11世紀になるとCastillaの一部となった。f- > h > の音変化はバスク語の影響で早かった。Berceoの作品に見られる言語的特徴はCastillaの北部のものである。語末の -i (= -e) は頻繁に見られるが (esti, essi, li, pudi, fizi, salvesti), これは今日でもLeónレオン方言に残存している。-mb- > -m- の変化はない。また、比較級に más と並んで plus が用いられた⁵。

(1) - (2)

[前掲]

(3)

438a	Vinién en dos cavallos plus blancos que cristal.
b	armas quales non vío nunqa omne mortal;
c	el uno tenié croça, mitra pontifical,
d	el otro una cruz, omne non vío tal.
439a	Avién caras angélicas, celestíal figura,
b	descendién por el áer a una grand pressura,
c	catando a los moros con turba catadura,
d	espadas sobre mano, un signo de pavura.

【語句】438a **plus** = más ... より… 438b **vío** > vió 見た 438b **omne** > hombre 人 438c **croça** = báculo pastoral o episcopal 錫杖(しゃくじょう) 438c **mitra** ミトラ, 司教冠 439a **Avién** = Tenían 439b **áer** > aire 空中 439b **pressura** (s. XIII-XV) = prisa 急ぎ 439c **catando** = mirando 見ながら (catar 'mirar'; s. XII-XV) 439c **turba** > torva 恐ろしい 439c **catadura** (s. XIII-XV) = gesto 形相 439d **pavura** (s. XIII-XV) > pavor 恐れ。

⁵ cf. R. Lapesa. *Historia de la Lengua Española*, 48, 2.

(4)

- | | |
|------|--|
| 440a | Los christianos con esto foron más esforzados, |
| b | fincaron los inojos, en tierra apeados; |
| c | firién todos los pechos con los punnos cerrados, |
| d | prometiendo emienda a Dios de sus peccados. |
| 441a | Quando cerca de tierra fueron los cavalleros, |
| b | dieron entre los moros, dando golpes certeros; |
| c | ficieron tal damage en los más delanteros |
| d | qe plegó el espanto a los más postremeros. |

【語句】440a **foron** > fueron …であった(cf. 441a fueron) 440b **fincaron los inojos** > hincaron los hinojos 跪いた 440c **firién** > herían = golpeaban 打った 441b **colpes** > golpes 打撃 441b **certeros** (s. XIII-XV) = seguros 確かな 441c **damage** (s. XIII) > daño 被害 cf. Fr. dommage 441d **postremeros** (s. XIII-XV) > postreros, traseros, últimos。

(5)

- | | |
|------|---|
| 442a | Abuelta d'estos ambos qe del cielo vinieron, |
| b | aforzaron christianos, al ferir se metieron; |
| c | juravan los moriellos por leñ qe prisieron, |
| d | qe nunca en sos días tal priessa non ovieron. |
| 443a | Cayén a muy grand priessa los moros descreídos, |
| b | los unos desmenbrados, los otros desmedridos; |
| c | repisos eran mucho qe y eran venidos, |
| d | ca entendién del pleyto qe serién mal exidos. |

【語句】442a **Abuelta de** = Junto con …と一緒に 442b **aforzaron** (s. XIII) = cobrar ánimo 元気を出す 442c **moriellos** = moros + iellos (縮小辞)⁶ モーロ人ども 442d **sos** > sus彼らの 442d **priessa** (s. XII-XV) = apuro 窮地 442d **ovieron** = tuvieron持った 443a **Cayén** > Caían倒れた 443b **desmedridos** = amedrentadosお

⁶ この縮小辞 -ielloは「軽蔑」の意味があったと思われる。

じけづいて 443c **reprois** = arrepentidos 悔悟して 443c **y** = allí そこに 443c **eran venidos** > habían venido 来た(過去完了) 443d **pleyto** (s. XIII-XV) = contienda, lid, batalla 戦い 443d **exidos** = salidos 結果となる (exir 'salir', s. XII-XIII)。

(6)

444a	Cuntiólis otra cosa qe ellos non sonnavan,
b	essas saetas mismas qe los moros tiravan,
c	tornavan contra ellos, en ellos se fincavan;
d	la fonta qe ficieron, carament la compravan.

【語句】444a **Cuntiólis**⁷ > Les aconteció 彼らに起きた (cuntir 'acontecer', s. XI-XV)
 444b **saeta** (s. XIII-XV) = flecha 矢 444b **se fincavan** (s. XIII-XIV) = se clavaban
 刺さった 444d **fonta** (s. XIII-XV) = afrenta, ultraje.

●線過去 (不完了過去)

次はラテン語の不完了過去の形態である。スペイン語では AR 動詞で **aba** という活用語尾がつき, ER 動詞と IR 動詞で **i/a** という活用語尾がつくが, ラテン語ではすべて **ba** で統一されていた。

Lat. 第一種活用	amāre	Lat. 第二種活用	monēre
	amābam		monēbam
	amābāmus		monēbāmus
	amābās		monēbās
	amābātis		monēbātis
	amābat		monēbat
	amābant		monēbant
Lat. 第三種活用	regere	Lat. 第四種活用	audīre
	regēbam		audiēbam
	regēbāmus		audiēbāmus
	regēbās		audiēbās
	regēbātis		audiēbātis
	regēbat		audiēbat
	regēbant		audiēbant

⁷ lis (> les) リオハ方言の特徴。

Med. Sp. では第一種活用が *ava* (*ava*), 第二・三・四種活用では *ía* という活用語尾になった。*ía* は *a* が *i* に同化して, *ie* という形, また *ié* という二重母音化もあったが, 14 世紀になると *ía* に統一される⁸。

【課題 6a】 現代スペイン語の *ser* と *estar* 動詞の使い分けを歴史的な理由を考慮に入れて説明しなさい。

【課題 6b】 現代スペイン語の線過去の規則性をラテン語と比較しながら考察しなさい。

【課題 6c】 聖ヤコブと・または聖ミリアンの信仰について調べなさい。

【参考文献】

Dutton, Brian. 1967. *La “Vida de San Millán de la Cogolla” de Gonzalo de Berceo. Estudio y edición crítica.* London. Tamesis Books Limited.

FIN

⁸ cf. 中岡 (1993), pp.108-111.